2021/12/04 公開

ごうちゃんねる（GO-CHANNEL）　　**◆終末預言シリーズ（前兆編）◆**

＃18「艱難時代前の最大の前兆 – 携挙とは何か？」

東住吉キリスト集会　　高原 剛一郎 氏

✡-✡-✡

お元気ですか。高原剛一郎です。このシリーズでは、艱難時代に至るまでに起こる前兆を、時代順番に 10 個並べて紹介して来ました。 1 つ目は、ほぼ全ての民族を巻き込む世界的規模の戦争/世界大戦が起こるということでしたね。これは既に実現しました。10 番目の前兆は、反キリストがイスラエルと安全保障条約を結ぶということです。これはまだ実現していません。

いずれにしても 1 番目から 10 番目、時代順番に 10 個の前兆を並べて紹介しましたが、これ以外に他にもまだ前兆があるんです。しかし他の前兆は、どのタイミングで起こるのかの時期については伏せられてるんですね。分からない。だけど、それが起こらないことには艱難時代はやって来ません。

タイミングが伏せられているしるしの中で、最も大きなしるしは**携挙**（けいきょ）です。
携挙とは、やがてキリストが天から空中に下りて来て、死者（クリスチャンだった）をよみがえらせ、そして、地上に生きているクリスチャンたちを一瞬にして天に引き上げてしまうことです。
これはあまりにも瞬間的に起こるので、その時代にいる人でも、それが起こった瞬間 気がつく人はおそらく誰もいないでしょう。ともかく、地上のクリスチャンたちが一瞬にして姿を消すのです。

そこで**携挙**について、“携挙とはいったい何なのか。誰がそれに与るのか。いつそれが起こるのか。その中身は何なのか。どんな変化が起こるのか” について、しばらくシリーズでお話したいと思います。

第 1 回目。**携挙とは何か。**これについては聖書をまず読んでみましょう。
テサロニケ人への手紙第一 4 章 16-17 節。新約聖書の手紙の中で一番古い書物です。
すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身（イエス･キリスト）**が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。**

大まかに言うと、まずキリストが天から空中まで下りてくる。そして、クリスチャンとして死んだ方々が復活する。キリストが下りて来た瞬間、地上で信仰生活を送っているクリスチャンたちは、よみがえらされた死者たちと一緒に、一瞬にして空中に引き上げられる。彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられる。
これが**携挙**です。引き上げられるを日本語では**携挙**と語っているのです。

新約聖書はギリシア語で書かれています。引き上げられという言葉はギリシア語でハルパゾー。
これがラテン語になるとラプトー。ラプトーが英語ではラプチャー（Rapture）。
ラプチャーを日本語に翻訳して携挙。“携え挙げる” 携挙と訳したんですね。
私は、携挙という翻訳は非常に優れた訳だと考えています。

“携/携える” は “手を取って一緒に連れて行く” という意味があるんですね。
妻子を携えて赴任するという場合、妻子の手を取って一緒に新しい赴任地に行くということですよね。
携には “手を取って共に行く” という意味があるのです。

“挙/挙げる” は “下にあるものを上にあるところに移動する” という意味です。
下にある手を上にあるほうに上げたら挙手ですね。
キリストはやがて地上にいるクリスチャンたちの手を取って、天という上に携え挙げる。
なので、携挙という翻訳は非常に理にかなった、正確な豊かな意味を持つ翻訳だと思います。

ところで、ハルパゾー（引き上げる）というギリシア語、この言葉の意味をもう少しイメージするために、ハルパゾーが聖書のどこに使われているのかをちょっと紹介したいと思います。2 箇所だけ。

◆ヨハネの福音書 6 章 15 節
イエスの周りにはいつも人々が殺到していました。その最大の理由はイエスが奇跡を行ったからです。
特に、ヨハネの福音書 6 章の直前に非常に大きな奇跡を行ったんですねぇ。
空腹でフラフラになっている男性だけで 5000 人、女性や子供を入れたら数万人。わずかなパンを増やして、その飢えた数万人を満腹にするという奇跡です。

腹が満たされた。その時人々は熱狂して、このイエスを王様にしてついて行ったら、もう生活苦から解放される。何を食べたらいいのか食物の心配をしなくても済む。それでイエスに押し迫り、熱狂的になり、ヒステリー状態になり、まるで神輿を担ぐように担ぎ上げて、無理やり王様にしようとする勢いで迫って来たんですね。その時のことをこう書いています。

ヨハネ 6:15 イエスは、人々がやって来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、再びただ一人で山に退かれた。

連れて行こうとしているのは 1 人 2 人の力じゃない。熱狂している人々が押し迫って来た。
強力な力で無理やりにでも引きずって行こう、連れて行こうとする。
この、連れて行こうとするの言葉がハルパゾーです。

◆使徒の働き 23 章 10 節
これは、使徒パウロが自分のキリスト信仰をユダヤ人たちの前で弁明するんですね。
ところが聞いているうちに、人々の頭にカ―ッと血が上って、冷静でいられなくなってしまい、暴徒化してしまった時の事です。

使徒 23:10 論争がますます激しくなったので、千人隊長は、パウロが彼らに引き裂かれてしまうのではないかと恐れた。それで兵士たちに、降りて行ってパウロを彼らの中から引っ張り出し、兵営に連れて行くように命じた。

兵士たちに、降りて行ってパウロを彼らの中から引っ張り出し、
ヒステリー状態のユダヤ人の群衆がパウロをもみくちゃにしている。それを言葉で「やめなさい！離しなさい！」と言っても聞く耳持たない。それで、屈強な完全武装のローマ兵士が群衆の中にズカズカと割って入り、屈強な力で無理やりパウロを奪い返して、引きはがして、引っ張り出して、安全圏の兵営に連れて行った。この、引っ張り出したの言葉がハルパゾーです。

ここで使われている言葉のニュアンスを見ると、危険な状態にいる人々を強力な力で助け出し、引きはがし、引っ張り出して、絶対安全圏に移動させる。その時に使われた言葉がハルパゾー。
このギリシア語のハルパゾーがラテン語のラプトーになり、それが英語のラプチャーになり、日本語では携挙と翻訳されているのですね。

さて、携挙という言葉は新約聖書の中には 1 回も登場しません。聖書に携挙という言葉がないので「携挙なんか無いよ」なんてことを言う方がたまーにいらっしゃる。
だけど、三位一体という言葉は聖書に 1 回も登場しませんが、三位一体を意味する言葉・内容・約束・説明は聖書におびただしく明記されています。それと同じように、携挙という単語そのものは新約聖書に登場しないけど、携挙を説明する言葉は聖書の中に、新約聖書の至るところに説明されてるんですね。携挙はあります。それは神の約束だからです。

携挙。“やがてキリストが来て、この世界からクリスチャンたちを一気に引き上げる” 意味だと今回申し上げたのですが、次回は、**誰が携挙に与るのか**ということに焦点を合わせて説明したいと思います。

さて、今日はご紹介したい絵本があります。これは『タートルストーリー』という絵本なんですね。

私の友人の井上くみ子さんが作者で、絵はあらき ひかりさん。非常に美しい絵本です。内容をざっくり言うと、創造主なる神様に信頼するという決断に勇気を与える、背中を 1 つポンと押してくれるような励ましの本と言えると思います。

この本、ある方が推薦文を書いてるんですね。いったい誰が書いたのか？ ワタシなんですねぇ。
なので、自分で書いたやつなんですが、ちょっとね、読んでみたいと思います。

「自然界にたくましく生きる動物たちには、おしなべて帰巣本能があると言われています。
帰るべきところには、目には見えない磁力のようなものがあるのでしょう。そして生き物たちは、本能に訴える、呼び掛ける声に抗うことはありません。私たち人間もふるさと・故郷に懐かしさを感じます。
ところで、懐かしいという言葉は “ふところ” とも読みます。生まれ育った場所への懐かしさは、私たちをこのようにあらしめる大きな存在の懐を連想させるものなのかもしれません。
人間が忘れかけている魂のルーツへのノスタルジアに気付かせる優しい物語。推薦します。」

自分が帰るべき海に帰って行くウミガメ赤ちゃんの物語。あんまり詳しく言うとね、ネタバレして面白くなくなるから、ここまでにしておきますが。これ、日本語の文章の下に英文付いてるんです。だから、英語圏の方も読んでいただけるんじゃないかなと思います。
税込みなんと 600 円。これは破格ですよ。この方はこれが 3 冊目なんですが、どれも素晴らしい内容ですので、もしよろしければお読みになってください。概要欄に申し込みのメールアドレスを貼っておきますし、この方の作品については 『Milk & Honey あいプロジェクト』 と検索していただくとホームページに移動するので、そこから調べていただけます。よろしければ、よろしくお願いします。

皆さん、お風邪など召されないよう、どうぞ手洗い・うがい、よろしくお願いします。
そして、よければチャンネル登録もお願いします。
ではまた、このチャンネルでお目にかかりましょう。さよなら。

☆使用した聖書は「聖書　新改訳 2017」です。